

■ 曲目のご案内

2021年が没後100年に当たるサン＝サーンスは、優れたピアニストでもあり、オルガンの名手でもありました。その彼がオルガン独奏付きの交響曲として書いたのが、交響曲第3番「オルガン付き」。この曲は、彼より24歳年上の作曲家で、交響詩を創始し

たりストに捧げられていますが、初めにお聴きいただくのは、そのリストの交響詩「レ・プレリュード」。「人生は死の前奏曲である」という意味が込められています。そしてもう一曲は、未来の妻コンスタンツェと出会って間もない21歳のモーツァルトが、求職活動のために訪れたパリで作曲した交響曲第31番「パリ」です。

■ 黒岩英臣(くろいわ ひでおみ) 指揮



Photo:KAJIMOTO

1942年東京生まれ。1960年桐朋学園大学指揮科に入学し、故斎藤秀雄氏に師事。1964年、同大学弦楽オーケストラのアメリカ公演に指揮者として同行。1965年同大学卒業後に修士となり、1975年まで修道生活を送った。その間、神学、哲学、ラテン語、グレゴリオ聖歌、ポリフォニーを学び、典礼音楽の指揮、作曲を行った。1976年より再び音楽に専念し、1977年東京都交響楽団ファミリーコンサートを指揮し、「久方ぶりに現れた、優れた資質をしかと感ぜさせる新人」と絶賛され、一躍脚光

を浴びた。以来、全国の主要オーケストラに数多く出演し、安定した評価を得ている。自らが敬虔なキリスト教徒ということから、宗教音楽に造詣が深く、情熱的な音楽創りが評価されており、オラトリオ、レクイエム、ミサ曲等での名演を重ねている。1981年から1988年まで九州交響楽団常任指揮者、1985年から1989年まで神奈川フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者、1988年から1994年まで関西フィルハーモニー管弦楽団の常任指揮者を務めた。2001年より山形交響楽団常任指揮者を務め、2004年同団名誉指揮者に就任、現在に至る。1978年より2016年まで桐朋学園大学にて教鞭を執り、多くの著名な指揮者を育て上げた。

■ 新山 恵理(にいやま えり) オルガン



東京藝術大学音楽学部オルガン科卒業、同大学院修了。仏・リール国立音楽院では満場一致の一等賞を得て同音楽院を首席で卒業。その後もヨーロッパの各国国際アカデミーにおいて研鑽を積む。歴史的な楽器でのコンサートに出演して好評を博し、18世紀に

建造された楽器の修復記念演奏会にも招待されている。ソロ演奏会のほか、合唱団やアンサンブルとの共演、各オーケストラでのオルガン担当、またソリストとして共演。NHK-FM「朝のバロック」、NHKテレビ「名曲アルバム」等に出演する一方で、レクチャーや講習会にも取り組んでいる。東京芸術劇場、アクトシティ浜松副オルガニスト。

■ 世田谷フィルハーモニー管弦楽団

世田谷フィルハーモニー管弦楽団は、作曲家、故芥川也寸志氏の「世田谷区民によるアマチュアオーケストラを」という呼びかけに応じて、1989年3月、さまざまな職業の音楽愛好家によって結成された。世田谷区の厚い支援を受け、同年12月に「せたがや区民による第九コンサート」で初演奏を披露。その後は、毎年2回の定期演奏会を開催するほか、世田谷区民合唱団とともに「せたがや名曲コンサート」にも出演。また、ヴェルディ「椿姫」やブッチ

ーニ「ラ・ボエーム」、チャイコフスキー「くるみ割り人形」など、オペラやバレエにも挑んでいる。近年採り上げた主な曲目は以下の通り。モーツァルト「交響曲第41番《ジュピター》」、ドヴォルザーク「交響曲第8番」、バルトーク「管弦楽のための協奏曲」、ブラームス「ヴァイオリン協奏曲」、リムスキー＝コルサコフ「交響組曲《シェエラザード》」、モーツァルト「レクイエム」、武満徹「弦楽のためのレクイエム」など。

新型コロナウイルス感染防止のため、ご協力をお願いします。

- 家を出る前に検温をお願いします。
37.5℃以上の場合は、来場をご遠慮ください。
- 演奏会の前2週間以内に外国を訪問された方は、来場をご遠慮願います。
- 会場内ではマスクを常に着用し、会話は最小限に留めてください。
- 会場内での出演者との面会をご遠慮ください。
また花束や贈り物は辞退いたします。
- 指定された座席からの移動はお控えください。
- ご声援は、声を出さずに拍手でお願いいたします。

これからの演奏会

- **世田谷フィル第59回定期演奏会**
2022年4月24日(日)午後2時開演
昭和女子大学人見記念講堂
チャイコフスキー 交響曲第5番 ほか
指揮 黒岩 英臣
- **バレエ公演 ミンクス「ドン・キホーテ」**
2022年10月9日(日)
昭和女子大学人見記念講堂
共催 世田谷クラシックバレエ連盟

交通のご案内

- 京王新線 初台駅 東口から徒歩5分

